

- 4) 久保田哲史, 藤森史江, 樽木千穂, 金澤秀子, 檜垣 恵. 免疫抑制剤 FK506 封入高分子ナノ粒子製剤の開発. ライフサポート学会. 東京, 2月.
- 5) 石川 真, 坂本千賀子, 金澤秀子, 檜垣 恵, 岡野光夫. 温度応答性高分子修飾リボソームによる薬物放出制御. 第52回日本薬学会関東支部大会. 東京, 10月.
- 6) 金澤秀子, 石川 真, 坂本千賀子, 岡野光夫, 綾野絵理, 檜垣 恵. がん温熱療法への応用を目的としたドラッグデリバリーシステムの開発. 第24回ライフサポート学会大会. 山口, 9月.

## 臨床研究開発室

- 教授: 栗原 敏  
(兼任)
- 准教授: 浦島 充佳 癌分子分類, 臍帯血研究, 疾病素因, 統計学
- 准教授: 松島 雅人 糖尿病合併症の診断精度

## 教育・研究概要

### I. 研究内容

人は同じように見えても、ある人は病気になり、ある人は病気にならない。また同じ病名でも、病理組織像が同じでも、ある患者は治癒し、ある患者は不幸な転帰をたどる。これは、実験研究だけでは解明されないし、かといって個々の患者を診療しているだけでも氷解するものではない。そこで我々は分子生物学と疫学を融合させ、新しい臨床研究の分野を切り開くことにより、この点を解明していく。特に数年間ビタミンDとその受容体遺伝子多型解析を研究室のメインテーマとする。

分子疫学はあくまで手法である。大学院生には個別にテーマを与え、分子疫学的手法を駆使して世界に発信できるエビデンスを構築してもらう。その過程で、仮説設定, 研究デザイン, 研究計画書, データモニター, 統計ソフト (STATA) を用いての解析, 英語論文作成を体験する。並行して、週に1回のラボミーティングにより疫学, 生物統計学の基礎, プレゼンテーション能力, コミュニケーション能力, 英語能力を養わせる。

### II. 研究課題

1. 介入研究
  - 1) ビタミンDを用いた二重盲検ランダム化プラセボ比較臨床試験
  - 2) 小中学生を対象としたインフルエンザ発症予防試験
  - 3) 肺癌患者を対象とした術後再発予防試験 (ビタミンD受容体遺伝子解析含)
  - 4) 消化器癌患者を対象とした術後再発予防試験 (ビタミンD受容体遺伝子解析含)
  - 5) パーキンソン病神経症状改善試験 (ビタミンD受容体遺伝子解析含)
  - 6) アトピー性疾患発症抑制試験
2. 観察研究
  - 1) ビタミンD受容体遺伝子多型が腎不全患者の生命予後に及ぼす影響

- 2) ビタミンD受容体遺伝子多型が糖尿病患者の腎合併症に及ぼす影響
- 3) 頭頸部癌 EGFR 遺伝子変異と予後
- 4) 頭頸部癌ビタミンD受容体遺伝子多型と予後
- 5) 卵巣癌ビタミンD受容体遺伝子多型と予後
- 6) 臍帯血中ビタミンD濃度と出生時体重の関係
- 7) 双胎児研究
- 8) 癌の遺伝子チップ研究
3. 数理モデル
- 1) 新興感染症 (新型インフルエンザなど)

### III. 教育活動

1. 平成20年度慈恵クリニカルリサーチコース  
学内だけでなく学外も対象とし、臨床研究の方法論に関して21回(1回2時間)にわたり夜間セミナーを行った。
2. バイオセキュリティ2008開催

### IV. 国家安全保障への関与

昨今のテロ、戦争、新興再興感染症を鑑みると国家が国民の安全を保障できるインフラ整備も急務である。当研究室ではパブリックヘルスの立場から、内閣官房危機管理官アドバイザーと安全保障・危機管理室の講師をしている。

#### 「点検・評価」

平成20年度は臨床研究開発室が発足して実質7年目であった。依頼のあった臨床研究が確実に海外一流雑誌に掲載されるようになってきた。平成21年度の目標は、

1. 慈恵発の臨床研究を世界のトップジャーナルに報告することを目指す。
2. 前向き臨床研究のモニタリング業務を柱の1つとする。
3. 学会、財団から委託される多施設共同研究を積極的に受ける。

### 研究業績

#### I. 原著論文

- 1) Etemadmoghadam D, deFazio A, Beroukchim R, Mermel C, George J, Getz G, Tothill R, Okamoto A, Raeder MB, Harnett P, Lade S, Akslen LA, Tinker AV, Locandro B, Alsop K, Chiew YE, Trafficante N, Fereday S, Johnson D, Fox S, Sellers W, Urashima M, Salvesen HB, Meyerson M, Bowtell

D; AOCs Study Group. Integrated genome-wide DNA copy number and expression analysis identifies distinct mechanisms of primary chemoresistance in ovarian carcinomas. *Clin Cancer Res* 2009; 15(4): 1417-27.

- 2) Omi H, Okamoto A, Nikaido T, Urashima M, Kawaguchi R, Umehara N, Sugiura K, Saito M, Kiyono T, Tanaka T. Establishment of an immortalized human extravillous trophoblast cell line by retroviral infection of E6/E7/hTERT and its transcriptional profile during hypoxia and reoxygenation. *Int J Mol Med* 2009; 23(2): 229-36.
- 3) Ishibashi T, Murayama Y, Urashima M, Saguchi T, Ebara M, Arakawa H, Irie K, Takao H, Abe T. Unruptured intracranial aneurysms: incidence of rupture and risk factors. *Stroke* 2009; 40(1): 313-6.
- 4) Yoshida Y, Goda K, Tajiri H, Urashima M, Yoshimura N, Kato T. Assessment of novel endoscopic techniques for visualizing superficial esophageal squamous cell carcinoma: autofluorescence and narrow-band imaging. *Dis Esophagus* 2009; 22(5): 439-46.
- 5) Kawasaki N, Suzuki Y, Urashima M, Nakayoshi T, Tsuboi K, Tanishima Y, Hanyu N, Kashiwagi H. Effect of gelatinization on gastric emptying and absorption. *Hepatogastroenterology* 2008; 55(86-7): 1843-5.
- 6) Ogi S, Gotoh E, Uchiyama M, Fukuda K, Urashima M, Fukumitsu N. Influence of hilar deposition in the evaluation of the alveolar epithelial permeability on 99mTc-DTPA aerosol inhaled scintigraphy. *Jpn J Radiol* 2009; 27(1): 20-4.
- 7) 檜垣健二, 大谷彰一郎, 金 隆史, 増村京子, 原野雅生, 浦島正喜, 影本正之, 高田晋一, 松浦博夫. 進行乳癌に対するWeekly Paclitaxel Followed by FEC100療法開始時の治療効果の予測に関する検討. *癌と化療* 2008; 35(9): 1513-7.
- 8) 鈴木正彦, 浦島充佳, 橋本昌也, 荻 成行, 村上善勇, 伊藤保彦, 栗田 正, 松井和隆, 岡 尚省, 井上聖啓. パーキンソン病の心交感神経障害は寡動, 発症年齢, 罹病期間と相関する. *臨神経* 2008; 48(12): 1135.
- 9) 宮崎かづき, 柏田てい子, 林 孝彰, 北川貴明, 久保朗子, 浦島充佳, 北原健二, 常岡 寛. 異常3色覚と診断された先天赤緑色覚異常者におけるLanthony desaturated panel D-15 testの意義. *日視能訓練士協誌* 2008; 37: 109-14.
- 10) 岡本愛光, 浦島充佳, 二階堂孝, 高尾美穂, 斉藤美里, 高倉 聡, 矢内原臨, 山田恭輔, 磯西成治, 安田 允,

落合和徳, 田中忠夫. アレイ解析 臨床応用を目指して 漿液性卵巣癌における包括的ヒトゲノム発現解析による Paclitaxel (PTX) 耐性関連遺伝子のスクリーニングとその臨床応用. *Cytometry Res* 2008; 18 (Suppl.): 48.

重症急性呼吸器症候群(SARS). *小児内科* 2008; 40 (7): 1206-22.

4) 浦島充佳. 実践フィールド・エビデミオロジー 演習 脳炎. *小児内科* 2008; 40(6): 1064-70.

## II. 総 説

- 1) Nakayoshi T, Kawasaki N, Suzuki Y, Ura-shima M, Hanyu N, Yanaga K. Epidural analgesia and gastrointestinal motility after open abdominal surgery—a review. *J Smooth Muscle Res* 2008; 44 (2): 57-64.
- 2) 笠貫 宏(早稲田大学), 萩原誠久, 小川洋司, 志賀剛, 浦島充佳. 【大規模臨床試験 循環・代謝系を中心に】総論 医師主導型大規模臨床試験の現状と展望. *日臨* 2008; 66(増刊8 大規模臨床試験): 43-9.

## III. 学会発表

- 1) 濱 孝憲, 浦島充佳, 湯坐有希, 須田稔士, 平澤良征, 岡野 晋, 清野洋一, 加藤孝邦. 頭頸部癌における上皮成長因子受容体(EGFR) 遺伝子変異の全長解析. 第32回日本頭頸部癌学会. 東京, 6月. [頭頸部癌 2008; 34(2): 177]
- 2) 渡部通章, 矢永勝彦, 浦島充佳, 忽滑谷和孝, 井上大輔, 共田光裕, 山崎一也, 石山 哲, 小田晃弘, 小菅誠, 衛藤 謙, 小川匡市, 柏木秀幸, 大木隆生. HADSによる大腸癌手術患者の精神的負担の分析とその時間的推移の検討. 第108回日本外科学会. 長崎, 5月. [日外会誌 2008; 109 卷(臨増2): 377]
- 3) 作間未織, 浦島充佳. 胎児のアディポネクチン 妊婦の喫煙と出生体重との関連についての検討. 第111回日本小児科学会学術集会. 東京, 4月. [日小児会誌 2009; 113(2): 302]
- 4) 濱 孝憲, 浦島充佳, 湯坐有希, 平澤良征, 須田稔士, 青木謙祐, 清野洋一, 加藤孝邦. 頭頸部扁平上皮癌における上皮成長因子受容体(EGFR) 遺伝子変異の解析と BAF3 細胞を用いた薬剤感受性の検討. 第46回日本癌治療学会総会. 名古屋, 10月. [日癌治療会誌 2008; 43(2): 577]

## V. その他

- 1) 浦島充佳. Clinical question 解決の方策 RCT と観察研究の役割 RCT vs. Population-based cohort study 大規模な医療データの蓄積システムが必要. *臨薬理* 2008; 39(Suppl.): S145.
- 2) 浦島充佳. 【小児疾患診療のための病態生理】EBM 基本的なことや注意すべきこと. *小児内科* 2008; 40(増刊): 36-8.
- 3) 浦島充佳. 実践フィールド・エビデミオロジー